

紀伊家鷹場に関する資料を読む

史料一 御鷹場記録 (会田家文書 No.809)

一頁目

「 明暦二申年ヨリ

御鷹場記録

御鳥見 会田孫四郎 」

二頁目

① 一寛保四子八月廿日二 於

御會 (会) 所富岡甚兵衛并

細田三右衛門儀、三人扶持被下置候、

只今迄之通、御金茂其儘 (俟)

被下置候

三頁目

② 一寛保四子九月四日瓦曾根村

沼井河岸場江、永井伊賀守殿

米置藏相建候由、其届ケ名主

方迄有之候、尤書付者不出候、

届ケ一通り二而、則重而御屋敷役人

中被相廻候節者、宜鋪様執成可

申段申遣候

四頁目

一西方村名主年寄申上候ハ、西

方村地内江永井伊賀守様御米

置場新藏御建被成候所、右

相建候場処、御拳場ニ御座候ニ付、

五頁目

乍恐以書付申上候

一西方村名主年寄申上候ハ、西

方村地内江永井伊賀守様御米

置場新藏御建被成候所、右

相建候場処、御拳場ニ御座候ニ付、

紀州様御添場内ニ而、御拳場

二而者無御座候、 紀州様迄

鶴鷹御遣被遊、兼而御添場内之由

被仰付置候、 紀州様御鳥見

衆江御訴申上相建申候、御拳場

御定杭者西葛西用水埜脇ニ

相建、御捉飼場御定杭ハ小林村地内ニ

相建申候、右之御定杭見通

六頁目

申候得者、式町斗茂御定杭迄隔り

申候 御拳場外ニ而、 紀州様

御添場ニ紛無御座候、右申上候通、少茂

相違無御座候、以上

右之通、御尋逢候而、書付差出申候、

又々重而御尋可被成由御座候段訴申來候

九月十五日

柴村藤右衛門様

御役所

右之通、御尋逢候而、書付差出申候、

又々重而御尋可被成由御座候段訴申來候

九月十五日

彦左衛門

名主

子九月十四日

一御鷹場始メ享保二酉年迄同

拾巳年迄九年見習相勤申候、

尤御鷹場始メ迄親平左衛門御山方

兼役被仰付候ニ付、私義御鷹場

始メ迄本役同断ニ御鷹場相勤申候

一享保拾巳年本役被仰付、當 (当) 丑年まで

廿耄年相勤申候、都合當 (当) 年迄

式拾九年無懈怠相勤申候

丑五月

丑五月

右者延享二丑五月申上写

⑤ 一享保拾四年迄見習被仰付、

當 (当) 丑年迄拾七年無懈怠相勤

申候

丑五月 会田兵八

右者延享二丑五月申上写

⑥ 一仲ケ間中内々願之儀、此度蓮見、

松本兩人江御加増被下候ニ付、此上残

五人願出候儀者、何とか羨敷奉存候

品々相聞江候間、相止可申段

延享 株消 二丑六月御加増年々銀五枚宛

⑦ 一享拾四年酉四月十八日、根岸

小沢三郎兵衛病身ニ付、御役御

七頁目

免願、則願之通被仰付候

⑧一同西六月十九日、平岡段七被

召出、御鳥見役被仰付候、且又

八木橋傳（伝）藏義も御鳥見被仰付候、

七兵衛儀山方御役斗被仰付候段、

是又村々江相触申候、以上

鳩ヶ谷宿迄申候、以上

⑨一御屋敷迄

鳩ヶ谷宿迄 御道法五里半程

一御屋鋪迄

浦和迄 御道法六里拾丁程

一鳩ヶ谷迄

浦和迄 御道法三里半程

右寶（宝）暦六年子十月九日書上

八頁目

⑩一赤芝新田之儀、石神村枝郷二

罷成候、則御判鑑此節御渡し

被成也

享保拾二年未三月廿五日

九頁目

一東使八太夫殿、井出弥平太殿御犬八疋

御組中御犬為捉飼御越被成、子猪

生捕御用有之候、大門邊（辺）壱丁目權現山

二而生捕申候

享保拾二年五月四日

十頁目

⑭一私御預場村々殺生禁制之

寺社無御座候、尤先達書上候通

相違無御座候、以上 会田平左衛門

享保拾二年未六月書上

十一頁目

⑮一御山方役八木橋七兵衛、平岡段七判鑑

差遣候間、壹枚ツ、請取候、先々江相廻

可被申候

未六月廿三日 会田平左衛門

御預場村々

右者山方衆之判形紙おし

連印ニ而相渡候、以上

⑯一寺口仁左衛門殿迄大門町家數繪圖（繪図）

御用ニ付、再應（応）町繪圖（繪図）認、嘉右衛門殿江

差出申候、本陣迄西方迄拾八町、同所より

新田通坂下迄二拾丁程、間宮村

高札場迄六町、惣家數書上候

右未六月

享保拾二年五月十六日

可有之哉奉存候

廿六日仕上ヶ候町繪圖（繪図）面家數相違